
見つけた

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
見つけた

【コード】
N6985M

【作者名】
ターザン

【あらすじ】
ほんのわずかな興味がとんでもない事に

(前書き)

こつこつの苦手だけど良かったらどうぞ

A「なあなあ、知ってるか？ここの近くに心霊スポットあるの。」

B「知ってる知ってる、今度行ってみようぜ。」

AとBは学校で有名な心霊スポットについて話していた。

そして今夜午前0時に2人で行く事にした。

そして午前0時

B「やっぱりざとなると不気味だな。」

A「なんだよ、怖いのか？」

B「そんなんじゃないよ！」

その心霊スポットはある森の中にあるトンネルだ。

なんでもトンネルに置いていかれてそのまま飢え死にした子供の霊が誰かを道連れにしようとかさまよっているとか。

A「おい、あれじゃねえか？例の森。」

B「行こうぜ、たぶん奥にトンネルがあるはずだ。」

森の中にライト一つで入っていく2人、しばらく進むとトンネルがあった。

A「あつたあつた、あれだ。」

B「やっぱりやめないか？嫌な予感がする。」

A「大丈夫だよ、所詮噂だろ？」

Aがトンネルに入っていく、Bは慌ててAについていく。

A「誰かいませんかー！」

・・・

A「ほらな？何も出てこない。」

B「そうだな・・・戻るか。」

「・・・た・・・。」

B「ん？なした？」

A「え？何が？」

B「いや、今なんか言っただろ？」

A「何のこと？」

「・・・けた・・・。」

Bは背筋が凍った、誰もいないはずの自分の後ろから声が聞こえたからだ。

A「どうしたんだ？」

B「帰るぞー！」

BはAを強引にひっぱり来た道を引き返す。

A「どうしたんだよ、慌てて。」

B「声が聞こえたんだよ！誰もいないはずの自分の後ろから声が！」

A「・・・お前、何言ってるんだ？」

B「は？」

A「森に入る前からお前の後ろに子供いただろ、お前の知り合いじゃないのかよ。」

Bは後ろを振り返ろうとした瞬間声が聞こえた。

「見つけた・・・。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6985m/>

見つけた

2010年10月28日05時32分発行